

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第 1 項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年 6 月27日
【事業年度】	第40期（自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日）
【会社名】	株式会社滋賀ゴルフ倶楽部
【英訳名】	SHIGA GORUFU KURABU CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 中島 壽博
【本店の所在の場所】	滋賀県甲賀市水口町巖峨1115番地 1
【電話番号】	0748（62）0030（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 平野 恵一
【最寄りの連絡場所】	滋賀県甲賀市水口町巖峨1115番地 1
【電話番号】	0748（62）0030（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 平野 恵一
【縦覧に供する場所】	該当事項はない。

第一部【企業情報】

第１【企業の概況】

１【主要な経営指標等の推移】

回次 決算年月	第36期 平成21年 3 月	第37期 平成22年 3 月	第38期 平成23年 3 月	第39期 平成24年 3 月	第40期 平成25年 3 月
売上高（千円）	558,078	516,490	459,283	495,795	497,408
経常利益（千円）	10,973	6,438	3,833	8,269	10,533
当期純利益（千円）	36,137	3,153	2,493	4,166	6,970
持分法を適用した場合の投資利益（千円）	-	-	-	-	-
資本金（千円）	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
発行済株式総数（千株）	61	61	61	61	61
純資産額（千円）	1,706,969	1,703,816	1,701,323	1,697,157	1,690,187
総資産額（千円）	2,905,461	2,865,176	2,825,185	2,808,432	2,802,741
１株当たり純資産額（円）	28,001.92	27,950.19	27,909.30	27,840.96	27,726.60
１株当たり配当金 （うち１株当たり中間配当額） （円）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
１株当たり当期純利益（円）	592.81	51.72	40.90	68.34	114.34
潜在株式調整後１株当たり当期純利益（円）	-	-	-	-	-
自己資本比率（％）	58.8	59.5	60.2	60.4	60.3
自己資本利益率（％）	-	-	-	-	-
株価収益率（倍）	-	-	-	-	-
配当性向（％）	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー（千円）	86,683	33,488	26,769	50,226	47,225
投資活動によるキャッシュ・フロー（千円）	44,913	5,875	12,214	7,953	17,854
財務活動によるキャッシュ・フロー（千円）	38,566	35,770	35,770	35,770	35,700
現金及び現金同等物の期末残高（千円）	129,039	120,882	99,667	106,169	99,770
従業員数 （外、平均臨時雇用者数） （人）	28 (16)	26 (16)	29 (14)	30 (12)	32 (17)

（注）１．当社は連結財務諸表を作成していないので連結会計年度に係る経営指標等の推移については記載していない。

２．売上高には、消費税等は含まれていない。

３．当社は関連会社を有していないため、持分法を適用した場合の投資利益は記載していない。

４．潜在株式調整後１株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

５．株価収益率については、非上場のため記載していない。

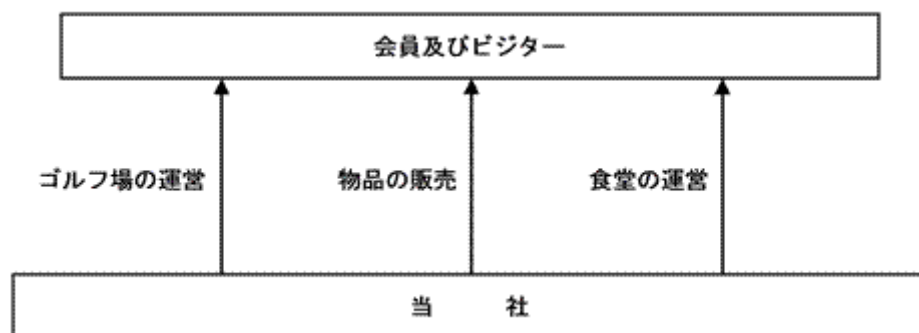
６．自己資本利益率は、債務超過のため算出していない。

2【沿革】

昭和48年 5月 アキヨシ観光開発株式会社（資本金200万円）を大阪市東区伏見町3丁目28番地において設立。
昭和48年 9月 株式会社滋賀ゴルフ倶楽部に商号変更。資本金800万円に増資するとともに、本社を大阪市都島区
中野町2丁目8番24号に移転した。
昭和51年 5月 資本金3,000万円に増資。
昭和52年11月 「滋賀ゴルフクラブ」としてゴルフ場開場。
昭和53年 3月 本社を大阪市北区天神橋4丁目3番19号に移転した。
昭和55年10月 本社を大阪市西区立売堀3丁目6番17号に移転した。
昭和56年 1月 本社を大阪市港区石田1丁目1番14号に移転した。
昭和63年 6月 本社を滋賀県甲賀郡水口町大字巖峨字大谷1115番地1に移転した。
平成12年 9月 民事再生手続を大津地方裁判所に申し立てた。
平成14年 6月 「再生計画案」が認可確定した。
平成14年 8月 従前の株式が全額無償消却されるとともに、会員債権者等に対しその預託金債権の一部を現物出
資の目的とする第三者割当増資60,959万円が行われた。
平成15年 2月 資本金を57,959万円減少させ、3,000万円とした。
平成17年 7月 民事再生手続が終結した。

3【事業の内容】

当社は、滋賀県甲賀市水口町に18ホールのゴルフ場及び諸施設を所有し、会員制によりゴルフ場の経営を行っている。また、これに付帯する売店及び食堂を経営している。



4【関係会社の状況】

該当事項はない。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）	平均年齢（才）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
ゴルフ場の運営事業	32（17）	45.1	6.5	3,354,594

- （注）1．従業員は就業人員であり、臨時従業員数は年間の平均人員を外数で記載している。
2．臨時従業員には、アルバイトキャディ、パートタイマーの従業員を含んでいる。
3．平均年間給与は賞与及び基準外賃金を含んでいる。

(2) 労働組合の状況

提出会社の労働組合は結成されていない。

なお、労使関係について特に記載すべき事項はない。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度におけるわが国経済は、昨年末の新政権誕生によるデフレ脱却を目指す諸施策により円高是正、株価上昇等景気回復が期待されながらも、依然として引き続き厳しい経営環境となった。

当社としては、営業面においては、当クラブ開場35周年を迎え、記念企画等積極的な営業施策を展開するとともに平成24年11月にはレストランを直営化するなど営業体制の強化に努めたが冬季(第4四半期)に積雪による来場者減がひびき総来場者数は前年比99.0%の42,162人となり、平均客単価は同対比99.8%の10,783円となったが、名義変更料等のその他収入が120.3%の42,765千円となったため、営業収益は同対比100.3%の497,408千円となった。

損益につきましては、一層の経費削減と合理的費消に努めたが、レストランの直営化に伴う先行投資等により、販売費及び一般管理費は同対比103.0%の416,785千円となり、営業利益は同対比138.4%の10,301千円、経常利益は同対比127.4%の10,533千円、当期純利益は同対比167.3%の6,970千円となった。

(2) キャッシュ・フロー

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動によるキャッシュ・フローが前事業年度に比べ3,001千円減少したこと、また、投資活動によるキャッシュ・フローが9,901千円減少したこと等により、前事業年度に比べ6,399千円減少し、99,770千円となった。

また、当事業年度中における各キャッシュ・フローは次のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において営業活動の結果得られた資金は47,225千円であり、前事業年度に比べ3,001千円の減少となった。

これは、主として前事業年度に比して商品の仕入れによる支出が15,757千円減少したものの、営業収入が8,066千円増加し、人件費の支出が20,935千円増加したこと等によるものである。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は17,854千円であり、前事業年度に比べ9,901千円減少している。

これは、主として前事業年度に比して、有形固定資産の取得による支出が9,901千円増加したことによるものである。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動の結果使用した資金は35,770千円で前事業年度と同額である。これは、民事再生計画に従う長期借入金の返済33,250千円、及び長期未払金の支払2,520千円が前事業年度と同額であることによるものである。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 入場者数

内訳	第39期 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	第40期 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
メンバー(人)	7,943	7,910
ビジター(人)	34,631	34,252
合計(人)	42,574	42,162

(2) 入場者収入

内訳	第39期 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	第40期 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
メンバーフィ(千円)	15,284	15,179
ビジターフィ(千円)	88,403	84,132
キャデイフィ(千円)	112,087	113,591
食堂収入(千円)	88,483	84,783
売店収入(千円)	20,437	22,473
その他(千円)	171,101	177,250
合計(千円)	495,795	497,408

(注) 上記金額には消費税等が含まれていない。

(3) 年会費、名義変更料等

内訳	第39期 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	第40期 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
年会費(千円)	25,942	26,145
名義変更料等(千円)	9,623	16,620
合計(千円)	35,565	42,765

(注) 1. 上記金額は(2)の入場者収入の内訳のその他に含まれている。

2. 上記金額には消費税等が含まれていない。

3【対処すべき課題】

当面の対処すべき課題の内容

(1) 営業収入の増加

翌事業年度につきましてもデフレ脱却に向けた諸施策により、景況感に明るさが見られるものの、それが持続可能なものか引き続き予断を許さない状況が続くものと思われる。ゴルフ業界においても「2015年問題」といわれる人口構造的な要因からゴルフ人口が一段と減少するのではないかという問題が懸念されており、生き残りをかけた厳しい競争が続くものと思われる。当社としては将来に向けての確固たる礎を築くべく「正念場」の年と位置づけ従業員が一丸となって日々の業務の改革・改善に努め、より効率的な経営体質を構築することにより、収益向上を図っていかねばならない。

(2) 資金収支の改善

近隣ゴルフ場との価格を中心とした集客競争が一層激化するなどにより営業収入の伸び悩みが続いており苦しい資金繰りを強いられている。また、永続的な企業存続のため資金面のより一層の充実を図らなければならない。

4【事業等のリスク】

当社は、当事業年度末において1,690,187千円の債務超過になっている。これにより当社は、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在している。また、当社は、親会社および関連会社が存在しない単独企業で、主要な株主も存在しないため、企業の存続については、あくまでも自助努力のみを旨とするため今後ともキャッシュ・フローの更なる改善に取り組んでいく必要がある。

5【経営上の重要な契約等】

ゴルフ場用地の賃貸借契約

当社のゴルフ場用地のうち一部の使用に関しては、次の契約によっている。

契約内容		相手先	期間
地上権設定契約	ゴルフ場施設のため土地 50,160m ²	ゴルフ場用地の地権者14名	昭和52年11月より10年毎更新

6【研究開発活動】

該当事項はない。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において判断したものである。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されている。

(2) 当事業年度の経営成績の分析

当社の経営成績は、当クラブ開場35周年を迎え、記念企画等積極的な営業施策を展開したものの、冬季の積雪による来場者減がひびき、来場者数は前年比99.0%の42,162人となり、平均客単価は同対比99.8%の10,783円となったが、名変料等のその他収入が120.3%の42,765千円となったため、営業収益は同対比100.3%の497,408千円となった。損益については合理的費消に努めたが、レストランの直営化に伴う先行投資等により、販売費及び一般管理費は同対比103.0%の416,785千円となり、営業利益は同対比138.4%の10,301千円、経常利益は同対比127.4%の10,533千円、当期純利益は同対比167.3%の6,970千円となった。

(3) 戦略的現状と見通し

当社は、営業面において近隣ゴルフ場との集客競争が一層激化することが予測されるため、一層顧客満足度を高めるため、全従業員が一丸となって顧客目線にもとづく業務の継続的改善を行い、サービス及びコースの質の向上に努め、来場者数につなげることによって営業収入の増大を計り、収益向上を図っていく。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社の資金状況は、当事業年度キャッシュ・フローでは、前事業年度に比して6,399千円減少した。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度における設備投資総額は、23,507千円であり、主なものはレストラン直営化に伴う厨房機器（ライ斯拉ボ、食器洗浄機等器具・備品）3,086千円、コース管理用機械装置（グリーンスクエア等）5,420千円、社用車（リース資産）3,160千円、及びコピー・プリンター機（リース資産）1,257千円等である。

なお、当社は単一セグメントのため全てゴルフ場の運営事業に係る投資である。

2【主要な設備の状況】

当社の設備は、すべて当社（滋賀県甲賀市）に係るものである。

主要な設備は、以下のとおりである。

建物

平成25年3月31日現在

設備の名称	数（棟）	面積（㎡）	金額（千円）
クラブハウス	1	2,582.14	26,781
売店	2	83.01	13,687
管理事務所	1	352.00	8,207

構築物

設備の名称	数（式）	金額（千円）
散水用給水ポンプ	2	3,154
進入道路	1	16,846

工具器具備品

設備の名称	数（式）	金額（千円）
コース用品	33	430
ハウス用品	145	10,318

コース勘定

設備の名称	数（ホール）	金額（千円）
ゴルフコース（コース造成工事一式）	18	1,081,851

土地

設備の名称	面積（㎡）	金額（千円）
ゴルフ場用地	532,474	1,319,045
山林	84,488	
保育所敷地	2,738	

（注）上記の他、主要な賃借として以下のものがある。

設備の内容	数量	期間	年間賃借料及びリース料
土地（注）	50,160㎡	昭和52年11月より	4,357,380円

（注）ゴルフ場用地として土地地権者より賃借中の土地

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社の設備投資については、今後の景気予測、業界動向、投資効率を総合的に勘案して策定している。

(1) 重要な設備の新設
該当事項はない。

(2) 重要な設備の改修
該当事項はない。

(3) 重要な設備の売却
該当事項はない。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000
計	180,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	60,959	60,959	非上場	当社は単元株制度を採用しておりません。
計	60,959	60,959	-	-

(注) 当社は株式を譲渡により取得するには、取締役会の承認を要する旨定款に定めている。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はない。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成15年2月7日	-	60,959	579,590	30,000	-	-

(注) 資本金のみを減少

(6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区 分	株式の状況								単元未満株 式の状況 （株）
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	-	-	-	80	-	-	510	590	-
所有株式数 （単元）	-	-	-	12,559	-	-	48,400	60,959	-
所有株式数の 割合（％）	-	-	-	20.6	-	-	79.4	100	-

(7) 【大株主の状況】

平成25年 3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社アールワイ	大阪市西区北堀江1-2-27 サウス四ッ橋406	1,665	2.7
谷野政毛織株式会社	大阪府泉北郡忠岡町忠岡北3 - 14 - 12	827	1.4
有限会社南井産業	滋賀県守山市梅田町3 - 6	825	1.4
サンテック印刷株式会社	京都市西京区牛ヶ瀬南ノ口町26	695	1.1
金山 俊寿	京都市右京区	576	0.9
芦田 和雄	大阪府高槻市	504	0.8
服部 富雄	京都市西京区	429	0.7
山本 正吉	大阪市平野区	429	0.7
藤田 忠	京都府長岡京市	339	0.6
近藤 哲二郎	京都府長岡京市	339	0.6
井上 祐三	兵庫県芦屋市	339	0.6
野口 一	堺市美原区	339	0.6
岡村 健	滋賀県甲賀市	339	0.6
計	-	7,645	12.5

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年 3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 60,959	60,959	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	60,959	-	-
総株主の議決権	-	60,959	-

【自己株式等】

平成25年 3月31日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はない。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はない。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はない。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はない。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はない。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はない。

3【配当政策】

当社は、株主総会の決議により、毎年3月31日を基準日として剰余金の配当を行うことができる旨定款に定めている。ただし、当社は債務超過会社であるため配当を行っていないが、民事再生手続終結に伴い一刻も早く経営を軌道に乗せ、株主への利益還元を第一とすべく努力する方針である。

4【株価の推移】

非上場のため該当事項がない。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	-	中島 壽博	昭和16年 5月28日生	昭和35年 4月 株式会社そごう入社 平成10年 3月 当社副支配人 平成11年 4月 当社支配人 平成12年 6月 当社取締役就任 平成12年 7月 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	10
取締役	経理部長	平野 恵一	昭和24年10月17日生	昭和48年 4月 株式会社そごう入社 平成13年 1月 当社入社 平成14年 6月 当社総務部長 平成18年 6月 当社取締役就任(現任)	(注)3	90
取締役	-	斎藤 甚太郎	昭和22年 2月25日生	昭和44年 4月 大日本印刷株式会社入社 平成57年 8月 司法書士・土地家屋調査士事務所 開業 平成24年 6月 当社取締役就任(現任)	(注)3	135
取締役	-	小林 務	昭和34年 4月 8日生	昭和59年 4月 電源開発株式会社入社 平成 8年 4月 京都弁護士会入会(現任) 平成14年 6月 当社監査役就任	(注)4	60
監査役	-	中瀬 八郎	昭和14年 5月18日生	昭和36年10月 水口町役場就職 平成 7年 8月 水口町収入役就任 平成17年 6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	60
計						355

- (注) 1. 取締役斎藤甚太郎、小林 務は、会社法第 2 条第15号に定める社外取締役である。
2. 監査役中瀬八郎は、会社法第 2 条第16号に定める社外監査役である。
3. 平成24年 6月25日開催の定時株主総会の終結の時から 2 年間。
4. 平成25年 6月25日開催の定時株主総会の終結の時から 2 年間。
5. 平成25年 6月25日開催の定時株主総会の終結の時から 4 年間。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(1) 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社の経営の基本は株主重視であり、法令および内部規程類を遵守し、各役員が経営情報を共有することで経営監視が有効に機能する運営を行っている。

取締役会を月1回開催し重要案件について迅速・適切な意思決定を行っている。また、監査役は取締役会に出席し意見を述べるとともに、業務の執行状況を十分把握のうえ業務監査を行っている。

なお、当社は、適時開示を行い「会社だより」等を通じて株主に「開かれた、透明感のある企業」として認識いただくよう努めている。

[会社組織図]



(2) 監査役監査状況

当社は監査役制度を採っている。監査役の員数は現在1名で、社外監査役であり、毎月1回開催される取締役会に出席している。監査役は、コーポレート・ガバナンスの一翼を担う独立の機関であるとの認識の下、業務執行の全般に亘って監査を実施している。

(3) 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、鳥井達夫氏である。当社の会計監査業務に係る補助者は公認会計士1名であり、審査担当者である公認会計士平尾徳一氏の審査を受けている。

(4) 社外取締役及び社外監査役との関係

会社と会社の社外取締役及び社外監査役との人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係の概要
当社と当社の社外取締役及び社外監査役との利害関係はありません。

(5) リスク管理体制

当社は経営の健全性を確保するため、リスク管理方針を定め総務部をリスク管理部門として、予想されるリスクの検討を行い、取締役会に対するリスク状況の報告・組織全体の意思決定への活用を通して、コンプライアンス・リスク管理体制の強化に努めている。

(6) 役員報酬の内容

当社の取締役及び監査役に支払った報酬の総額（年額）は21,240千円であり、その内容は、社内取締役（4名）に対する報酬は、18,600千円であり、社外取締役（1名）に対する報酬は、720千円であり、監査役（2名）に対する報酬は1,920千円である。

(7) 取締役の定数

当社の取締役は3名以上7名以内とする旨定款に定めている。

(8) 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任及び解任決議について、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めている。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
2,400	-	2,400	-

【その他重要な報酬の内容】

前事業年度及び当事業年度とも該当事項はない。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前事業年度及び当事業年度とも該当事項はない。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、監査日数等を勘案したうえ定めている。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（平成23年4月1日より平成24年3月31日まで）の財務諸表については、公認会計士中木福義氏により監査を受け、また、当事業年度（平成24年4月1日より平成25年3月31日まで）の財務諸表については、公認会計士鳥井達夫氏により監査を受けている。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がないため、連結財務諸表を作成していない。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っている。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更についての確に対応することができる体制を整備するため、財務会計関連の各種セミナーに参加している。

1【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	106,169	99,770
売掛金	45,189	48,424
商品	2,914	3,794
貯蔵品	774	587
繰延税金資産	5,756	7,623
その他	8,964	5,386
流動資産合計	169,766	165,584
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	120,435	111,237
構築物（純額）	54,590	50,492
機械及び装置（純額）	3,213	6,376
車両運搬具（純額）	6,070	4,043
工具、器具及び備品（純額）	8,496	10,749
コース勘定	1,081,851	1,081,851
土地	1,319,046	1,319,045
少額資産	438	645
リース資産（純額）	7,082	13,931
有形固定資産合計	1, 2 2,601,221	1, 2 2,598,370
無形固定資産		
借地権	32,815	32,815
電話加入権	377	377
ソフトウェア	29	0
リース資産	3,788	5,173
無形固定資産合計	37,009	38,365
投資その他の資産		
長期預け金	36	22
差入保証金	300	300
出資金	100	100
投資その他の資産合計	436	422
固定資産合計	2,638,666	2,637,157
資産合計	2,808,432	2,802,741

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,855	4,487
1年内返済予定の長期借入金	33,250	33,250
リース債務	3,878	6,225
未払金	10,062	16,859
未払法人税等	4,716	2,747
未払消費税等	3,282	2,700
預り金	4,312	4,724
賞与引当金	4,722	8,257
ポイント引当金	9,318	11,441
その他	88	101
流動負債合計	75,483	90,791
固定負債		
長期借入金	997,750	964,500
リース債務	6,704	11,896
入会預り金	3,364,268	3,364,268
退職給付引当金	14,535	14,793
役員退職給与引当金	13,600	15,950
長期未払金	33,249	30,729
固定負債合計	4,430,106	4,402,137
負債合計	4,505,589	4,492,928
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,727,157	1,720,187
利益剰余金合計	1,727,157	1,720,187
株主資本合計	1,697,157	1,690,187
純資産合計	1,697,157	1,690,187
負債純資産合計	2,808,432	2,802,741

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上高		
営業収入	350,508	347,387
食堂売店収入	109,722	107,256
年会費収入	25,942	26,145
その他の収入	9,623	16,620
売上高合計	495,795	497,408
売上原価		
商品期首たな卸高	2,409	2,914
当期商品仕入高	84,852	71,202
合計	87,261	74,116
商品期末たな卸高	2,914	3,794
商品売上原価	84,347	70,322
売上総利益	411,448	427,086
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	1,948	2,029
競技費	6,842	6,632
役員報酬	19,440	21,240
給料及び手当	130,951	142,825
賞与	5,431	7,785
賞与引当金繰入額	4,722	8,258
ポイント引当金繰入額	1,876	2,123
退職給付費用	1,670	259
役員退職給付引当金繰入額	2,200	2,350
福利厚生費	23,217	25,461
ハウス管理費	17,071	17,143
コース管理費	38,817	29,581
水道光熱費	20,986	20,456
消耗品費	11,288	13,765
租税公課	11,211	10,253
減価償却費	34,366	25,891
不動産賃借料	4,517	4,497
その他	67,452	76,237
販売費及び一般管理費合計	404,005	416,785
営業利益	7,443	10,301
営業外収益		
受取利息	36	13
不動産賃貸料	646	740
その他	373	1,759
営業外収益合計	1,055	2,512

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
営業外費用		
雑損失	229	2,280
営業外費用合計	229	2,280
経常利益	8,269	10,533
税引前当期純利益	8,269	10,533
法人税、住民税及び事業税	5,373	5,429
法人税等調整額	1,270	1,867
当期純利益	4,166	6,970

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	30,000	30,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	30,000	30,000
利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,731,323	1,727,157
当期変動額		
当期純利益	4,166	6,970
当期変動額合計	4,166	6,970
当期末残高	1,727,157	1,720,187
株主資本合計		
当期首残高	1,701,323	1,697,157
当期変動額		
当期純利益	4,166	6,970
当期変動額合計	4,166	6,970
当期末残高	1,697,157	1,690,187
純資産合計		
当期首残高	1,701,323	1,697,157
当期変動額		
当期純利益	4,166	6,970
当期変動額合計	4,166	6,970
当期末残高	1,697,157	1,690,187

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業収入	488,606	496,672
商品の仕入れによる支出	84,327	68,570
人件費の支出	182,242	203,177
その他の営業支出	170,766	170,314
小計	51,271	54,611
受取利息配当金等受取額	36	13
法人税等の支払額	1,080	7,399
営業活動によるキャッシュ・フロー	50,226	47,225
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	7,953	17,854
その他投資の返還による収入	-	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,953	17,854
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	33,250	33,250
長期未払金の返済による支出	2,520	2,520
財務活動によるキャッシュ・フロー	35,770	35,770
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	6,502	6,399
現金及び現金同等物の期首残高	99,667	106,169
現金及び現金同等物の期末残高	106,169	99,770

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

当事業年度
(自 平成24年 4 月 1 日
至 平成25年 3 月31日)

当社は、当事業年度末において1,690,187千円の債務超過になっている。これにより、当社には継続企業の前提に関する重要な疑義が存在している。

当社は、第33期事業年度において、民事再生手続きが終結したが、今後も再生計画に従い再生計画を確実に実行していく所存である。

財務諸表は継続企業を前提として作成しており、上記のような重要な疑義の影響を財務諸表には反映していない。

(重要な会計方針)

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品...売価還元法による原価法

貯蔵品...最終仕入原価法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産除く)

定額法によっている。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の方法によっている。

(2) 無形固定資産(リース資産除く)

定額法によっている。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

3. 引当金の計上基準

(1) 退職給付引当金

従業員の退職金の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき計上している。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上している。

(3) 役員退職給与引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社内規に基づく期末要支給見積額を計上している。

(4) ポイント引当金

販売促進を目的とするポイント制度に基づき、顧客へ付与したポイントの利用に備えるため、当事業年度末において将来利用されると見込まれる額を計上している。

4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書上の資金の範囲に含めた現金及び現金同等物は、手元現金、要求払預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から三ヶ月以内に償還期限及び満期日の到来する短期的な投資からなる。

5. その他財務諸表作成のための重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっている。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産は下記の通りである。

次の固定資産(簿価)について「借入金」の担保に供している。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
土地	1,319,046千円	1,319,046千円
コース勘定	1,081,851	1,081,851
計	2,400,897	2,400,897

担保債務は次のとおりである。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
一年以内に返済予定の長期借入金	33,250千円	33,250千円
長期借入金	997,750	964,500

2 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
	928,963千円	960,129千円

(株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

	当事業年度期首株 式数(株)	当事業年度増加株 式数(株)	当事業年度減少株 式数(株)	当事業年度末株式 数(株)
発行済株式				
普通株式	60,959	-	-	60,959
合計	60,959	-	-	60,959

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

当事業年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	60,959	-	-	60,959
合計	60,959	-	-	60,959
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項
該当事項はない。

3. 配当に関する事項
該当事項はない。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び預金同等物の期末残高と貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
現金及び預金勘定	106,169千円	99,769千円
現金及び現金同等物	106,169	99,769

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

カート車載システムを主としたGPSゴルフ場管理システム、事務システム更新によるハードウェア、レストラン用テーブル・椅子等である。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりである。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用について短期的な預金等に限定していく方針である。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融商品のうち、現金・預金及び営業債権である売掛金について、取引相手先はいずれも信用度の高い銀行、信販会社あるいは預り入会金を有するゴルフ場会員であるため、相手方の債務不履行による信用リスクは低いと判断している。

(3) 金融商品に係る管理体制

信用リスク

営業債権である売掛金については、経理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握を図っている。

市場リスクの管理

当社が保有する金融商品は、為替や金利等の変動リスクは少ない。

流動性リスク

買掛金、長期借入金については、資本繰計画を作成し、流動性リスクを管理している。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。

前事業年度(平成24年3月31日)

	貸借対照表計上額	時 価(千円)	差 額(千円)
(1) 現金及び預金	106,169	106,169	—
(2) 売掛金	45,189	45,189	—
資産合計	151,358	151,358	—
(1) 買掛金	1,855	1,855	—
(2) 1年内返済予定の長期借入金	33,250	33,250	—
(3) 未払法人税等	7,998	7,998	—
(4) 長期借入金	997,750	997,750	—
負債合計	1,040,853	1,040,853	—

当事業年度(平成25年3月31日)

	貸借対照表計上額	時 価(千円)	差 額(千円)
(1) 現金及び預金	99,770	99,770	—
(2) 売掛金	48,424	48,424	—
資産合計	148,194	148,194	—
(1) 買掛金	4,487	4,487	—
(2) 1年内返済予定の長期借入金	33,250	33,250	—
(3) 未払法人税等	5,446	5,446	—
(4) 長期借入金	964,500	964,500	—
負債合計	1,003,196	1,003,196	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によって

いる。

負債

(1) 買掛金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によって

いる。

(2) 1年内返済予定の長期借入金、(4) 長期借入金

借入金は民事再生計画による再生債務であり、金利は付されていないため当該帳簿価額によってい

る。

3. 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	106,169	—	—	—
売掛金	45,189	—	—	—
合 計	151,358	—	—	—

当事業年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	99,770	—	—	—
売掛金	48,424	—	—	—
合 計	148,194	—	—	—

4. 長期借入金の決算後の返済予定額

前事業年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	33,250	33,250	33,250	33,250	33,250	864,750
合 計	33,250	33,250	33,250	33,250	33,250	864,750

当事業年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	33,250	33,250	33,250	33,250	33,250	831,500
合 計	33,250	33,250	33,250	33,250	33,250	831,500

前事業年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	33,250	-	-	-	-	-
社債	-	-	-	-	-	-
長期借入金	-	33,250	33,250	33,250	33,250	864,750
リース債務	3,878	4,061	2,164	-	-	-
合計	37,128	37,311	35,414	33,250	33,250	864,750

当事業年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	33,250	-	-	-	-	-
社債	-	-	-	-	-	-
長期借入金	-	33,250	33,250	33,250	33,250	831,500
リース債務	6,225	6,225	3,457	1,240	974	-
合計	39,475	39,475	36,707	34,490	34,224	831,500

（有価証券関係）

該当事項はない。

（デリバティブ取引）

当社はデリバティブ取引を利用していないため、該当事項はない。

(退職給付会計)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は退職金規程に基づく退職一時金制度を採用している。

2. 退職給付債務に関する事項 前事業年度(平成24年3月31日) 当事業年度(平成25年3月31日)

イ. 退職給付債務	14,535千円	14,793千円
ロ. 退職給付引当金	14,535千円	14,793千円

3. 退職給付費用 前事業年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日) 当事業年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

イ. 勤務費用	1,670千円	259千円
ロ. 退職給付費用	1,670千円	259千円

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

イ. 退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務としている。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はない。

(税効果会計関係)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳		
繰延税金資産 (千円)		(千円)
賞与引当金	1,936	3,196
ポイント引当金	3,820	4,428
退職給付引当金限度超過額	5,959	5,725
役員退職給与引当金超過額	5,576	6,173
減価償却費超過額	205	192
繰延税金資産小計	17,496	19,714
評価性引当額	11,740	12,091
繰延税金資産合計	5,756	7,623
2. 法定実効税率と税効果適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	(%)	(%)
法定実効税率	41	39
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1	1
評価性引当額	15.9	3.3
中小企業の軽減税率による影響	13.9	11.9
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	3.6	—
その他	2.0	2.7
税効果会計適用後の法人税等の負担額	49.6	33.8

(持分法損益等)
該当事項はない。

(企業結合等関係)
該当事項はない。

(資産除去債務関係)
該当事項はない。

(賃貸不動産関係)
賃貸用不動産はない。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、ゴルフ場の運営事業の単一セグメントであるため、記載を省略している。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

ゴルフ場の運営事業の外部顧客へのサービスが損益計算書の90%を超えるため、記載を省略している。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が、損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略している。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が、貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産を省略している。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、該当事項はない。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はない。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はない。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はない。

【関連当事者情報】

該当事項はない。

(1 株当たり情報)

前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	
1 株当たり純資産額	27,840円96銭	1 株当たり純資産額	27,726円60銭
1 株当たり当期純利益	68円34銭	1 株当たり当期純利益	114円34銭
なお、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。		なお、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。	

(注) 1 株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
当期純利益 (千円)	4,166	6,970
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益 (千円)	4,166	6,970
期中平均株式数 (千株)	61	61

(重要な後発事象)

該当事項はない。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

該当事項はない。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	321,886	-	-	321,886	210,649	9,198	111,237
構築物	547,593	429	-	548,022	497,530	4,527	50,492
機械及び装置	56,750	5,420	-	62,170	55,794	2,257	6,376
車両運搬具	90,229	550	-	90,779	86,736	2,577	4,043
工具、器具及び備品	100,932	4,978	-	105,910	95,161	2,726	10,749
コース勘定	1,081,851	-	-	1,081,851	-	-	1,081,851
土地	1,319,046	-	-	1,319,046	-	-	1,319,046
少額資産	3,799	967	-	4,766	4,121	760	645
リース資産	14,549	9,521	-	24,070	10,139	2,672	13,931
有形固定資産計	3,536,635	21,865	-	3,558,500	960,130	24,717	2,598,370
無形固定資産							
借地権	32,815	-	-	32,815	-	-	32,815
電話加入権	377	-	-	377	-	-	377
ソフトウェア	700	-	-	700	700	29	0
リース資産	6,076	2,531	-	8,607	3,434	2,671	5,173
無形固定資産計	39,968	2,531	-	42,499	4,134	2,700	38,365
長期前払費用	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-

【社債明細表】

該当事項はない。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	33,250	33,250	-	平成25年6月
1年以内に返済予定のリース債務	3,878	6,225	-	平成26年3月
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	997,750	964,500	-	平成26年6月～平成54年6月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	6,704	11,896	-	平成26年4月～平成27年10月
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	1,041,582	1,015,871	-	-

(注) 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)決算日後5年における返済予定額は以下のとおりである。

平均利率については、民事再生計画に基づき無利息となっている。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	33,250	33,250	33,250	33,250

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	4,722	8,257	4,722	-	8,257
ポイント引当金	9,318	8,372	6,249	-	11,441
役員退職慰労引当金	13,600	2,350	-	-	15,950

【資産除去債務明細表】

該当事項はない。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	7,173
預金	
普通預金	22,476
定期預金	70,121
計	92,597
合計	99,770

売掛金

相手先	金額(千円)
J C B	9,829
D C	5,058
V I S A	4,877
未納年会費	26,689
その他	1,971
合計	48,424

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2}$ (B) 365
45,189	252,682	249,447	48,424	83.7	67.6

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しているが、上記「当期発生高」には消費税等が含まれている。

棚卸資産83.7

商品

品名	金額（千円）
キャディーバック他	125
ゴルフクラブ他	128
ゴルフシューズ他	88
帽子・手袋・レインウェア他	333
ゴルフボール	758
レストラン材料	1,295
コース売店	479
たばこ	197
その他	391
合計	3,794

貯蔵品

品名	金額（千円）
肥料 他	168
キャディ制服等	419
合計	587

買掛金

相手先	金額（千円）
フジノ食品等	4,487
合計	4,487

入会預り金

品名	金額（千円）
普通預託金	2,783,339
特別預託金	580,929
合計	3,364,268

(3) 【その他】

該当事項はない。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	決算期後90日以内
基準日	3月31日
株券の種類	1株券 5株券 10株券 50株券 100株券
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	該当なし
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料	滋賀県甲賀市水口町巖峨1115の1 株式会社滋賀ゴルフ倶楽部総務部 該当なし 該当なし 無料 無料
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	該当なし 該当なし 該当なし 該当なし
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	該当なし

(注) 当社の株式を譲渡するには、取締役会の承認を要する。

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、上場会社ではありませんので、金融商品取引法第24条の 7 第 1 項の適用はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第39期）（自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日）平成24年 6 月26日近畿財務局長に提出

(2) 半期報告書

（第40期中）（自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日）平成24年12月20日近畿財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はない。

独立監査人の監査報告書

平成25年6月21日

株式会社 滋賀ゴルフ倶楽部

取締役会 御中

鳥井公認会計士事務所

公認会計士 鳥井 達夫 印

私は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社滋賀ゴルフ倶楽部の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第40期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社滋賀ゴルフ倶楽部の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

継続企業の前提に関する事項に記載のとおり、会社は債務超過の状態にあり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。なお、当該状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は財務諸表に反映されていない。

当該事項は、私の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。